



さとたん通信

編集: 鈴木

令和6年度もさとたん活動を楽しみましょう！

長坂緑地に生息するカエル3種類を紹介

2024年度が始まり、田植え準備・里山の植え付けなどの活動が続く中、カエルの鳴き声が春の里山を感じさせてくれ、活動にパワーをくれる。今回は、長坂緑地で見られる3種類のカエルを紹介する。



まだ肌寒い2月に真っ先に産卵するのが、里山の象徴とも言われるヤマアカガエル。寒天質の卵塊の中には、黒い卵が千個以上ある。2週間ほどオタマジャクシになり、足が生えて陸に上がるまで3ヶ月ほどかかり、産卵できるようになるのは、その2年後。山の中に生息して田んぼで産卵するため、里山の環境でしか生きられないカエルだ。



田んぼや樹林地の奥に水たまりを12〜1月頃に造っておくと、4月にアズマヒキガエルが産卵にやってくる。きれいな水のある水たまりや池に長い紐状の卵塊を産卵する。オタマジャクシは黒色で他の種と比べて小さいのが特徴である。



4月になり田んぼに水が入ると、盛んに鳴いているのがシロケルアオガエル。

オガエル。4月27日の田んぼの作業中、土の中や土手の穴の中など4ヶ所に黄色い卵の入った白い卵塊を見つけた。孵化している卵塊もあり、水が入る時期を予測して産卵していたようだ。卵塊は乾燥を防ぎつつ水に浮き、雨が降るのを待って

家族で楽しむクヌギの植樹体験



3月30日午後に、10組の親子が、親子田んぼ先の広場にクヌギの苗を植えた。

高さ50〜80センチほどの苗の幹はまだ弱弱しい。やさしく扱わないと折れそうな太さである。穴を掘って苗を置き、両手で土を被せていった。木に添える記念プレート

いる。親子田んぼでは、ヤマアカガエルが減ってシユレーゲルアオガエルやアズマヒキガエルの産卵が増えてきた。今年の上の新しいため池や田んぼの周辺でヤマアカガエルが大発生している。(宮原)

トには、思い思いの言葉が書き込まれた。「ありがとう」と感謝の言葉や、「おおきなあれ」とていねいな文字で願いを書いている子もいた。「この木が太く高くなつたときに、家族で植えたりプレートに書いたことが、きつと懐かしく感じると思う」と、小学生の母親はうれしそうに話していた。



「おおきなあれ」と記念プレートに願いを書く子

念願の更衣室兼水洗トイレ設置



2013年5月の里山開きから11年。駐車場脇に水洗トイレが設置され、3月から使用が始まった。それまでは、簡易トイレ2基を使い、さとたんメンバーで掃除を続けてきたが、これからは市から業務委託された職員が毎週1回掃除することになった。トイレ内には、更衣が可能な備え付けの

地元である長坂の青木町内会長は、「念願だった水洗トイレが設置されたので、この機会にぜひ沢山池に出かけてほしい」と町内の会合で話していた。

田植え準備は泥遊びで



長坂緑地連絡協会のメンバーである岩波幼稚園の11家族が、5月11日に親子田んぼで泥んこ遊びを楽しんだ。

遊びをリードしたのは、よこすかプレパークのメンバー。カラーボールを使ったゲームや、お菓子取り競争などを楽しみつつ、代掻き前の泥が程よくこねられた。

さとたんメンバーも遊びの補助やお湯のプールの準備などをした。園児たちは、「温泉みたい」と冷えた体を温めて、うれしそうに笑っていた。